

隠岐の島沿岸で得られたムラサキゴカクガニ

幸塚 久典¹⁾・本尾 洋²⁾

¹⁾東京大学大学院理学系研究科附属臨海実験所, 〒238-0225 神奈川県三浦市三崎町小網代 1024

²⁾日本海甲殻類研究会, 〒924-0026 石川県白山市平木町 40

A Record of *Echinoecus nipponicus* Miyake, 1939 from Oki Islands, Sea of Japan

Hisanori KOHTSUKA¹⁾ and Hiroshi MOTOH²⁾

¹⁾Misaki Marine Biological Station Graduate School of Science, University of Tokyo,
1024 Misaki-Koajiro, Miura, Kanagawa Pref., 238-0225 Japan

E-mail:kohtsuka@mmbs.s.u-tokyo.ac.jp

²⁾Carcinological Society of the Japan Sea, 40 Hiragi, Hakusan, Ishikawa Pref.,
924-0026 Japan

Abstract One ovigerous female *Echinoecus nipponicus* Miyake, 1939 was collected from the coast of Takugi, Oki Islands, Shimane Prefecture, Sea of Japan. This is the first record of this species from Shimane Prefecture and the adjacent waters.

Key words : Symbiosis, *Pseudocentrotus depressus*, Brachyura, Oki Islands, *Echinoecus nipponicus*

キーワード : 共生, アカウニ, 短尾類, 隠岐諸島, ムラサキゴカクガニ

はじめに

本邦日本海沿岸の十脚短尾類に関する報告は、伊藤 (1958), 本間・千葉 (1967), 鈴木・本尾 (1969), 本尾 (1970a, b), 伊藤 (1972), 本尾・豊田 (2003) など、多数の生物地理学的な視点からなされている。島根県沿岸では上田 (1963), 佐藤・加藤 (1996), 加藤 (1992) などの報告がある。

著者らは、島根県隠岐郡隠岐の島町の海岸において、日本海側では稀なムラサキゴカクガニ *Echinoecus nipponicus* Miyake, 1939 をアカウニ *Pseudocentrotus depressus* (A. Agassiz) から採集したので、その概要を報告する。なお、本個体は島根県における初記録である。

材料と方法

標本は、2005 年 8 月 4 日に島根県隠岐郡隠岐の島町 (島後) 蛸木地先において SCUBA 潜水で採集した。宿主はアカウニ *Pseudocentrotus depressus* (A. Agassiz) であった。その水深は 6m であった。得られた標本は、75% エタノールで保存し、大阪市立自然史博物館 (OMNH) で保管されている。

なお、検討標本の項では、採集に関するデータ (年月日, 場所, 水深, 採集方法, 個体数, 宿主, 性別, 甲長, 採集者) を記した。

結果および考察

ケブカガニ科 Pilumnidae

ムラサキゴカクガニ

Echinoecus nipponicus Miyake, 1939

検討標本 : 2005 年 8 月 4 日, 島根県隠岐郡隠岐の

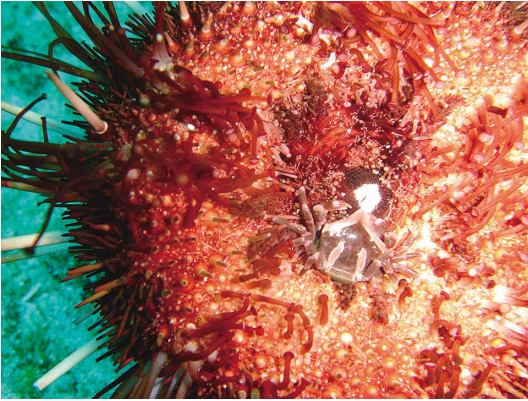


図1 アカウニ *Pseudocentrotus depressus* に共生するムラサキゴカクガニ *Echinoecus nipponicus* の生態写真。

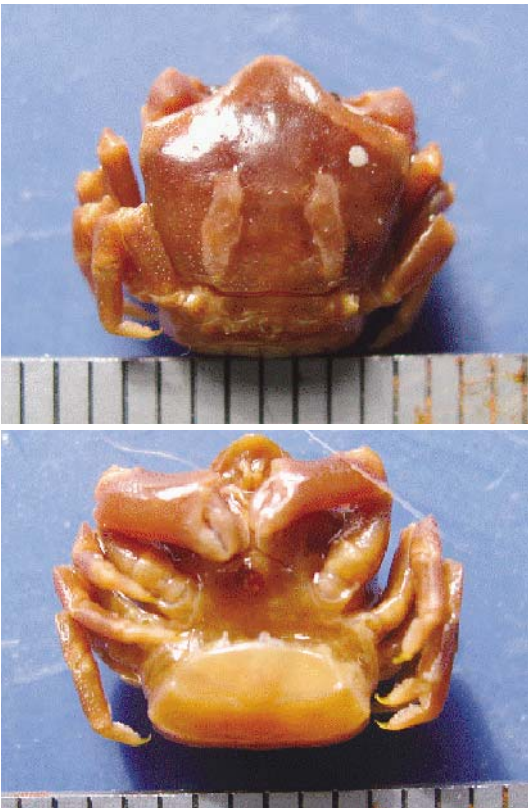


図2 ムラサキゴカクガニ *Echinoecus nipponicus* の標本写真。

A: 背面, B: 腹面 (スケール: 1mm 単位)

島町蛸木地先, 水深 6m, SCUBA 潜水, 1 個体, アカウニ *Pseudocentrotus depressus*, 雌 (抱卵), 甲長 7.2 mm, 甲幅 8.0 mm, 採集者: 幸塚久典
備考: 甲は額が前方に突出した五角形を呈し, 峯水 (2000) の写真に一致した. 今回観察した個体の背甲上の斑紋は, 額角を含む甲前縁に幅広く背甲中央に明瞭な「ハの字」状の白色部がある典型的な模様を呈していた. Chia *et al.*, (1999) や Ng and Jeng (1999) は, 本属カニ類の体色斑が, 宿主ウニ類の彩色にもなっていていちじるしく変異することを記している. また, 本尾・豊田 (2007) は同所的に得られた本種が背甲中央の白色帯が明瞭な「ハの字」状ではなく, 平行線状を呈し, 額角先端を含む 7 か所に小白色斑が点在するタイプと通常のタイプの色彩の 2 型を報告している. 今回得た 1 個体のムラサキゴカクガニの背甲の体色は, 宿主のアカウニの体色とほぼ同色の濃紫色であり, Chia *et al.*, (1999) や Ng and Jeng (1999) の記載を裏付けている.

本種は相模湾以南の岩礁域に生息する暖海系種であり (三宅, 1998), 今回の個体は, 日本海側からは京都府沿岸 (本尾・豊田, 2007) に次いで 2 番目の記録となる.

本尾・豊田 (2007) は初めて日本海側より本種を報告し, 潜水による詳細な調査が発見に貢献したと推察している. 今回の島根県隠岐からの発見も詳細な潜水調査が発見に貢献していると思われるが, それ以外にも地球温暖化にともなう環境変化も視野に入れる必要があろう.

謝 辞

本稿を作成するにあたり, 標本の登録および管理にご協力いただいた大阪市自然史博物館の石田惣博士に心から厚くお礼申し上げます.

文 献

- Chia, D. G. B., Castro, P. and Ng, P. K. L. (1999) Revision of the genus *Echinoecus* (Decapoda: Brachyura: Eumedonidae), crabs symbiotic with sea urchins. *J. Crust. Biol.*, **19**(4): 809–824.
- 本間義治・千葉 晃 (1967) 新潟市海岸のカニ類. 「平松義尚先生退職記念論文集」: 48–52.

- 伊藤十治 (1958) 福井県沿岸における科に類について. 福井生物研究会会誌, (5): 1-6.
- 伊藤正一 (1972) 佐渡島沿岸のカニ類. 新潟県生物教育研究会誌, (8): 25-28.
- 上田常一 (1963) 山陰地方 (隠岐群島を含む) 及びその付近海域のカニ類について. 甲殻類の研究, (1): 1-12.
- 加藤琢矛 (1992) 木村コレクション隠岐産動物標本目録 (1) 十脚甲殻類. 隠岐の文化財, **9**: 1-29.
- 峯水 亮 (2000) 「海の甲殻類. ネイチャーガイド」 343 p. 文一総合出版, 東京.
- Miyake, S. (1939) Note on crabs of the genus *Echinoecus* Rathbum living commensally with echinoids (Parthenopidae, Eumedoninae). *Annot. Zool. Japon.*, **18**(2): 83-94.
- 三宅貞祥 (1998) 「原色日本大型甲殻類図鑑 (II)」 277 p. 保育社, 大阪.
- 本尾 洋 (1970a) 七尾湾とその付近のカニ類相-I. 普通種. 石川県増殖試験場創立記念研究報告: 21-24, pls. I-IV.
- 本尾 洋 (1970b) 七尾湾とその付近のカニ類相-II. 少数種並びに希少種. 石川県増殖試験場創立記念研究報告: 35-40, pls. I-II.
- 本尾 洋・豊田幸詞 (2007) 京都府沿岸のカニ類-III. 小型の3稀少種. ホシザキグリーン財団研究報告, (10): 19-23.
- Ng, P. K. L. and Jeng, M-S. (1999) The Brachyuran crabs (Crustacea: Decapoda: Eumedonidae and Portunidae) symbiotic with echinoderms in Taiwan. *Zool. Stud.*, **38**(3): 268-274.
- 佐藤仁志・加藤琢矛 (1996) 上田常一動物標本コレクション目録 - 甲殻類 -. 島根県立三瓶自然館収蔵資料目録, (1): 1-138.
- 鈴木克美・本尾 洋 (1969) 石川県沿岸のカニ類. 採集と飼育, **31**(7): 192-198.